

2005年防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日 2006年1月31日

I 概要

実践団体・担当者名	NPO 法人桜島ミュージアム (担当者： 福島 大輔)	
連絡先	電話 099-293-2104	
プランタイトル	E ボートを用いた水上救援訓練 in 桜島	
目的	海に浮いている人を救助するという通常ではありえない状況を実際に体験させることで、防災に役立つノウハウを伝え、桜島噴火時には海から避難する計画があることを印象付ける。	
プランの概略	<p>10人1組でEボートを組み立て、ボートを漕いで沖に向かう。沖合で先生が海に飛び込み要救護者役を演じ、子供たちは先生をボートへ引きあげ救助する。</p> <p>14:15 事前説明</p> <p>14:20 ボート組み立て</p> <p>14:40 水上救援訓練1 (陸上解説指導2)</p> <p>15:10 水上救援訓練2 (陸上解説指導1)</p> <p>15:40 ボートかたづけ</p> <p>15:50 事後説明</p> <p>16:00</p>	
プランの対象と参加人数	鹿児島市立桜洲小学校6年生37名および防災関係者	
実施日時	9月29日(木)	
主な実施場所	赤生原避難港(鹿児島市桜島小池町)	
連携した団体名、連携の方法	連携団体の有無	有り
	連携した団体名	鹿児島市立桜洲小学校
	連携したきっかけ・理由	<ul style="list-style-type: none"> ・避難港が近くにあること ・防災教育がカリキュラムに含まれていること
	連携団体へのアプローチ方法	以前から同小学校と当NPOとの協力体制があった
	連携団体との打合せ回数	10回程度
	連携団体との役割分担	訓練内容の計画・準備・実施はすべて共同で行った

Ⅱ プラン立案過程

プラン立案 メンバーの 人数・役割	団体内のスタッフ総人数	2 名
	外部スタッフの総人数	3 名
	主なメンバーの 役職・役割	責任者 福島大輔 (NPO 法人桜島ミュージアム 理事長) 企 画 東川隆太郎 (NPO 法人桜島ミュージアム 理事) 安樂朋陽 (桜洲小学校・教諭) 北山剛正 (桜洲小学校・教諭) 技術指導 富田祐一郎 (急流水難救助員)
プラン立案に要し た日数・時間	立案期間	2005年4月～2005年9月
	立案時間	およそ10時間
	上記のうち打合せ回数	2時間 × 5回
プラン立案で 注意を払った点 工夫した点	○子供の安全管理 (小型船舶による監視と急流水難救助員によるサポート) ○先生が溺れているような演出 ○ただのボート遊びではなく、水上救援訓練であることを自覚させること	
プラン立案で 苦労した点	○日程調整が難しかった。適度な水温で実施できる時期には学校の行事も多く、また担任の先生の出張等の都合、当 NPO の都合と一致する日を設定するために予定日が二転三転した。	

Ⅲ 実践にあたっての準備

準備に関わった方 と人数・役割	団体内のスタッフ総人数	4 名
	外部スタッフの総人数	4 名
	主なメンバーの 役職・役割	責任者 福島大輔 (NPO 法人桜島ミュージアム 理事長) 企 画 安樂朋陽 (桜洲小学校・教諭) 北山剛正 (桜洲小学校・教諭) 技術指導 富田祐一郎 (急流水難救助員) 野元尚巳 (急流水難救助員) 会場準備 東川隆太郎 (NPO 法人桜島ミュージアム 理事) 竹ノ下武宏 (NPO 法人桜島ミュージアム 理事) 寺園美和 (NPO 法人桜島ミュージアム 事務局)
準備に要した日 数・時間	準備期間	2005年4月～2005年9月
	準備総時間	およそ時間50時間
	上記の内打合せ回数	2時間× 5回 4時間× 2回

教育関係への 働きかけ	働きかけた教育関係者・ 機関名	鹿児島市立桜洲小学校
	どのように働きかけたか	電話で依頼後、面談。趣旨・案内を説明し協力を求めた。
	結果	企画・実施を協働で行うことになった
地域への 働きかけ	働きかけた地域の人・ 機関名	①国土交通省大隅河川国道事務所 ②鹿児島海上保安部 ③鹿児島市消防局 総務課ほか ④鹿児島市 消防局 桜島東分遣隊 ⑤鹿児島市 消防局 桜島西分遣隊
	どのように働きかけたか	①趣旨・案内をファックスし、プラン見学の協力を求めた ②電話で依頼後、面談の上趣旨・案内を説明し協力を求めた ③趣旨・案内をファックスし、プラン見学の協力を求めた ④同上 ⑤同上
	結果	①プラン見学に協力してもらった ②趣旨は理解してもらえたが都合が合わず不参加 ③子供への救援訓練は推奨していないと断られた ④プラン見学に協力してもらった ⑤プラン見学に協力してもらった
保護者・PTAへ の働きかけ	働きかけた保護者・ PTA組織名	桜洲小学校 PTA
	どのように働きかけたか	6年生担任を通じてプラン実施時の小型船舶による監視を依頼した
	結果	保護者がプラン実施時に小型船舶による監視をしてくれた
機材・教材の 準備方法	用意した機材・教材	○ E ボート ○ 空気入れ ○ オール ○ ライフジャケット (PFD) ○ スローロープ
	入手先・入手方法	NPO 法人地域交流センターよりレンタル
	機材・教材選定の理由(な ぜこの機材・教材を選ん だのか)	他のボートに比べ安定性が高く、初心者でも安全にかつ楽しくボートを操舵でき、水上救援に適しているため

参加者の募集	募集方法	鹿児島市立桜洲小学校 6 年生の防災教育の一環として、授業 2 コマを使用して実施
	募集期間	2005年9月1日～9月28日
	参加予想人数	37 名
	実際の参加人数	37 名
	募集方法の成功点	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業の一環として平日の授業に組み込んでもらえたので、全員出席で実施できた。(もし日曜日に希望者を募った場合だと十分な人数が集まらなかった可能性はある) ○ 防災関係者がプランの見学に参加し、E ポートの性能を確認してもらえた点は良かった
募集方法の失敗点	<ul style="list-style-type: none"> ○ 趣旨・案内をファックスし、プラン見学およびアンケートの協力を求めたが、十分に伝わらず、不参加の機関もあった 	
準備で苦労した点・工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> ○ 海でのイベントを行う場合は、港の使用許可、海上保安部への許可申請(安全管理・緊急時対応マニュアル・小型船舶による監視)等の煩雑な手続きが大変であった。同機関内の様々な部署へ回され、なかなか「本丸」へたどりつけないこともあった。 	

IV タイムスケジュール（プラン立案から実践終了までのスケジュールを記載して下さい。）

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2004 11月			
12月	○ 桜洲小学校へコンタクト ○ 地域交流センターへコンタクト		
2005 1月	○ 申請書の作成		
2月			
3月			
4月		○ 打ち合わせ（桜洲小学校）1	
5月		○ 協力申請（鹿児島海上保安部）	
6月		○ 打ち合わせ（桜洲小学校）2	
7月		○ 打ち合わせ（鹿児島海上保安部）	
8月		○ 打ち合わせ（桜洲小学校）3	
9月		○ 防災関係機関・マスコミへの広報 ○ 事前オリエンテーション	○ プラン実施
10月			
11月			
12月			
2006 1月			○ 報告書作成

V実践の詳細 【A. 素材】(メインとなる活動を45分を1コマとして記入して下さい。)

タイトル	E ボートを用いた水上救援訓練			
実施日	9月29日			
所要時間	45分			
達成目標	桜島噴火時には避難港よりフェリーで避難する計画があることを伝える	ボート組み立てを通じてチームワークの大切さを学ぶ	水上救援訓練を体験する	災害時の行動について、様々な場面での対応を紹介
生成物				
進め方 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ● 概要説明 ● 注意事項説明 ● グループ分け 	<ul style="list-style-type: none"> ● ボート組み立て 	<ul style="list-style-type: none"> ● 沖までボートを漕ぐ ● 先生がボートから落ちる ● 生徒がオールで先生をたぐり寄せる ● ライフジャケットの方の部分をつかみ、ボートへ引き上げる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 噴火の前兆現象と事前避難の重要性 ● 噴火の種類と対策 ● ライフジャケットをつけていない場合の救助方法 ● 災害に限らずウォータースポーツ等で応用
ツール (特別に用意したもの)		<ul style="list-style-type: none"> ● Eボート 	<ul style="list-style-type: none"> ● Eボート 	
場所	赤生原避難港	赤生原避難港	赤生原避難港	赤生原避難港

V実践の詳細 【B. イベント】(短期集中型のプログラムを45分を1コマとして記入して下さい。)

タイトル	E ボートを用いた水上救援訓練			
実施日	9月29日			
所要時間	40分	50分	50分	20分
達成目標	地域防災計画を知る	水上救援訓練を体験する	同左	火山災害の種類と対策を知る(様々な場面に備えて)
生成物				
進め方 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ● 講演 	<ul style="list-style-type: none"> ● 沖までボートを漕ぐ ● 先生がボートから落ちる ● 生徒がオールで先生をたぐり寄せる ● ライフジャケットの方の部分をつかみ、ボートへ引き上げる 	同左	<ul style="list-style-type: none"> ● 講演
ツール (特別に用意したもの)	<ul style="list-style-type: none"> ● プロジェクター ● スクリーン 			<ul style="list-style-type: none"> ● プロジェクター ● スクリーン
場所	教室	赤生原避難港	赤生原避難港	教室

VI実践後

参加者へのアンケート結果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 楽しみながら救援のノウハウを体験している点が良い（防災関係者） ○ Eボートの安定性は優れている（防災関係者） ○ 組み立てに時間がかかる点は災害時に不利。フロアを使うなどの工夫が必要。（防災関係者） ○ ボートによる島外脱出は難しいのではないかと（防災関係者） 	
成果として得たこと	<ul style="list-style-type: none"> ○ Eボートの安定性は高く、水上救援に適している ○ 遊びの要素を取り入れた訓練は反応・教育効果ともに良い 	
成果物	<p>（学習指導案、指導計画書、配布物、ワークシート、報告書、掲載記事等。データがあればデータファイルを貼付して下さい。）</p>	
広報方法	広報した先	新聞・テレビ
	広報の方法	記者発表
	取材にきたマスコミ	朝日新聞 南日本新聞 NHK 鹿児島放送局 KKB 鹿児島放送
	広報された内容（掲載された記事・番組等）	日本教育新聞 10月24日掲載（1面および3面） 朝日新聞 10月15日掲載 南日本新聞 9月30日掲載 NHK 鹿児島放送局 9月29日放送（KKB・Jチャンネル） KKB 鹿児島放送 9月29日放送（さきどり！情報かごしま）
	成功点	新聞・テレビ等多くのマスコミに取り上げてもらうことができた
	失敗点	
全体の感想と反省・課題	<p>Eボートは安定性が高く水上救援には適しており、これを使った訓練は有効であった。しかし、子供たちに「ボートで逃げる」という誤った印象を植え付けたかもしれない。</p> <p>Eボートはレンタル料が高額であるため、どの学校でも手軽に使えるというのではなく、このプランの汎用性は低いと思われる。しかし、遊びの要素を取り入れることで子供たちの興味をひきつけ、楽しみながら防災に役立つ体験を提供できるという視点は、他の方法にも応用できよう。</p>	

今後の予定	来年度以降の進め方	1回きりのイベント的な実践をするのではなく、学校の防災教育の流れとあわせて、事前・事後の指導をもう少し丁寧にやりたい。
	是非実施してみたい 取り組み	Eボートに代わる安定性の高いボートを探し、プール等でも実践できる方法を模索する。
自由記述	<p>今回のプランでは、海に浮いている人を救助するという通常ではありえない状況を実際に体験させることで、防災に役立つノウハウを伝えることができた。頭で理解しただけでは災害時にとっさに行動することは難しく、訓練が重要であることは間違いない。その意味で今回のプランは、現実に近い状況を作り出し、体験・訓練させることができたので非常に有意義だったと思われる。</p>	